

稲作農家 各位

山武稲作情報 第4報

(2026年6月29日発行)



山武農業事務所 改良普及課

TEL: 0475-54-0226

FAX: 0475-52-7914

山武地域の生育状況

6月後半は平年よりも気温が低く、日照も短い日が多くなりました。気温が低く推移したことから、幼穂形成期は前年よりも遅い傾向です。草丈は平年よりも短く、葉色は平年よりも淡く推移しています。茎数は前年よりも多く推移しています。

幼穂形成期と生育量を確認し、追肥を検討しましょう。また、出穂期を予測し、斑点米カメムシ類の適期防除と適切な水管理を心がけましょう。

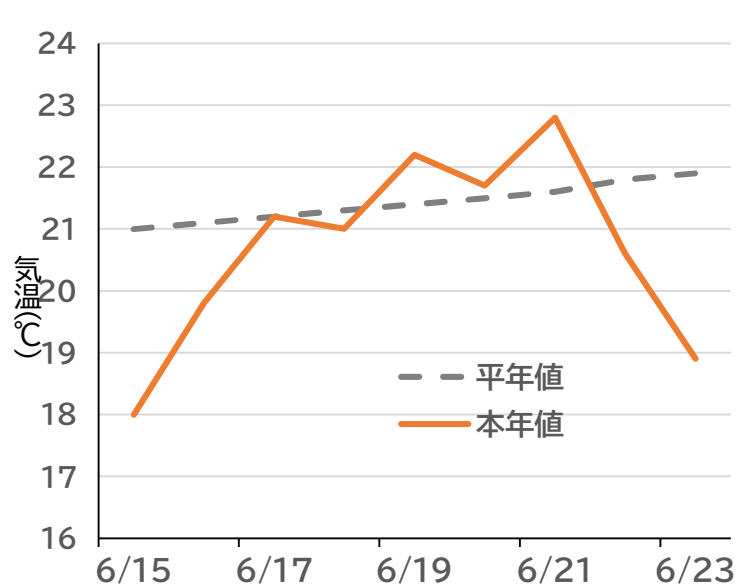


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

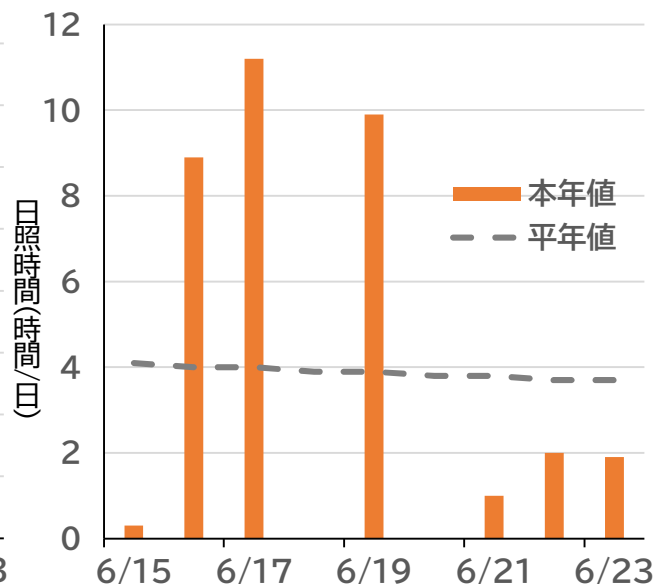


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

出穂期予測(6月24日現在)*

移植日	品種				
	コシヒカリ	ふさこがね	ふさおとめ	粒すけ	アキヒカリ
4/20	7/19	7/11	7/10	7/18	7/8
5/1	7/24	7/17	7/15	7/24	7/14
5/15	8/2	7/26	7/24	8/2	7/23

*予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

◇高温による出穂期の早期化に注意！

近年、高温の影響により幼穂形成期から出穂期の期間が短くなっています。以前は25～28日を要していましたが、近年は2日ほど短くなっています。今年も天候次第では出穂期の前進の可能性があるため、高温が予想される場合は出穂期の前進に合わせ、栽培管理が遅れないようにしましょう。

◆高温登熟障害について

出穂期後 20 日間が高温(日平均気温が26℃以上)となり、葉色が淡いと高温登熟障害による白未熟粒(基部未熟粒【写真1】と背白未熟粒【写真2】)の発生が多くなります。

出穂期後の高温が予想される場合は葉色を確認し、出穂期に目標値(表)に達しないことが見込まれる場合は出穂期7～5日前に窒素成分1kg/10a 施用しましょう(食味低下のリスクがあるため、追肥の量は1kg/10a を超えないようにしてください)。

表 各品種の出穂期の葉色目標値

品種	葉色(葉色板/SAPD 値)
ふさこがね	4.5/36.5
コシヒカリ	4.2/34.4
粒すけ	4.2/34.0



写真1



写真2

◆中干し後に注意すべき雑草

中干し終了後は、水がない状況で発生しやすい雑草①ヒエ②クサネム③ヒレタゴボウに注意しましょう。前年にこれらが発生したほ場では、残った種子が発芽する可能性が高いため、中後期除草剤による防除を検討しましょう。

ヒエ

イネ科の一年生雑草で、移植直後～中干し時期まで発生が続きます。中干し時期に発生したものも収穫時期には、草丈がかなり伸びるため対策が必要になります。発生してから草丈が低い5葉期までであれば、薬剤防除が有効です。ヒエしか発生していない場合は、ヒエに卓効のある除草剤を使用しましょう。しかし、草丈が伸びすぎると除草剤を散布しても枯死に至らないため、防除は早期の判断が必要となります。

クサネム

マメ科の一年生雑草で、畦畔や本田内に多く発生します。発生してから草丈が低い20cmまでであれば、薬剤防除が有効です。水稻と同じくらいの草丈になると収穫前に抜き取りするしか対策がないため、昨年に本田及び畦畔での発生が目立ったほ場では薬剤防除を検討しましょう。



ヒレタゴボウ

アカバナ科の一年生雑草で、本田内に多く発生します。発生してから草丈が低い20cmまでであれば、薬剤防除が有効です。水稻と同じくらいの草丈になると収穫前に抜き取りするしか対策がないため、昨年に本田での発生が目立ったほ場では薬剤防除を検討しましょう。



生育調査結果(幼穂形成期前)

*本年値の()内は平年値との差を示しています。 *葉色の CS はカラスケールになります。

コシヒカリ(東金市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
4/28	本年	59.4(97%)	428.3(95%)	10.5(96%)	4.3(94%)	-
4/26	前年	64.0	320.9	12.1	3.9	6/25

ふさこがね(山武市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
5/11	本年	53.6(92%)	632.3(121%)	9.1(88%)	5.2(99%)	-
5/3	前年	63.0	536.8	11.4	5.2	6/21

ふさおとめ(山武市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
5/4	本年	50.0(97%)	606.5(113%)	10.7(94%)	5.2(107%)	6/25
5/2	前年	55.9	455.7	12.0	5.1	6/22

千葉県水稻・畑地園芸研究所 成東育成地による生育調査結果(6月 24 日現在)

*本年値の()内は平年値(「コシヒカリ」「ふさこがね」「ふさおとめ」は過去 10 年、4月移植「粒すけ」は過去7年、5月移植「粒すけ」は過去6年)との差を示しています。

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
コシヒカリ 4/25移植	本年	61.2(99%)	439.2(86%)	10.7(102%)	3.9(93%)	6/24
	前年	68.0	398.5	10.4	4.4	6/22
ふさこがね 4/25移植	本年	54.8(105%)	549.0(97%)	10.5(108%)	4.2(85%)	6/17
	前年	59.1	436.0	10.6	5.1	6/21
ふさおとめ 4/25移植	本年	51.6(102%)	435.6(77%)	10.7(101%)	4.2(88%)	6/15
	前年	53.2	444.3	10.5	4.8	6/18
粒すけ 4/25移植	本年	58.1(98%)	646.6(122%)	11.6(103%)	3.7(85%)	6/23
	前年	61.1	437.7	11.8	4.7	6/22
粒すけ 5/15移植	本年	43.7(87%)	509.4(104%)	10.3(101%)	5.2(100%)	未形成
	前年	48.4	457.6	10.7	4.9	7/6

次回の発行は7月27日を予定しています。